

シンポジウム

生物多様性とライフスタイル

～自然の恵み「食」を将来に引き継ぐためにわたしたちができること～



愛知目標の後継となるポスト2020年生物多様性枠組の生物多様性条約COP15第2部（2022年春）での採択に向けて、今、国際的な議論が進められています。愛知目標の多くが未達成に終わり、今まで通りの社会では生物多様性の減少に歯止めがかからないことをIPBESが指摘したことを踏まえ、新しい枠組には人と自然とが共生できる社会への「変革」に向けた筋道をつけることが期待されています。IPBESのこれまでの評価によって、農業や漁業が生物多様性減少の重要な要因である反面、花粉媒介動物などの生物多様性の減少や集約的農業による生態系劣化が食料生産の重大なリスクであることなど、生物多様性と食の密接な関係が明らかになりつつあります。本シンポジウムでは、IPBESや生物多様性に関する国際的な動向の解説に加え、国内での先進的な取組の紹介も交えて、私たちにいちばん身近な自然の恵み、「食」をテーマに、自然を将来に引き継いでいくために私たちができることを考えます。



18:00	開会挨拶・趣旨説明 竹原 真理 環境省自然環境局生物多様性戦略推進室
○	基調講演①「生物多様性と消費行動：世界の動向、日本の役割」 橋本 禪 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
○	基調講演②「持続可能な食料システムと生物多様性の保全」 武内 和彦 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長
18:27	取組紹介①「カゴメ野菜生活ファームにおける生物多様性保全の取組み」 綿田 圭一 カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ 専任課長
○	取組紹介②「自然資本プロトコルに則ったお米の取組み評価」 高田 あかね 株式会社アレフ (ハンバーグレストランびっくりドンキー運営企業) SDGs推進委員会委員長/エコチームリーダー
○	取組紹介③「野生の菌による発酵を起点とした地域内循環の実現について」 渡邊 格 タルマーリー オーナーシェフ (野生の菌で醸すパン、地ビール&カフェ)
○	取組紹介④「変わりゆく海と魚・向き合う人のゆくえ」 上田 勝彦 株式会社ウエカツ水産代表/東京海洋大学客員教授
19:27	パネルディスカッション ファシリテーター 武内 和彦 パネリスト (五十音順) 上田 勝彦 高田 あかね 綿田 圭一 渡邊 格
19:57	閉会挨拶 奥田 直久 環境省 自然環境局長

WEB開催 (Zoom)
2021年12月14日 (火) 18:00~20:00

参加申込

参加料無料、事前申込制となっております。
 2021年12月12日 (日) までに、以下の
 参加フォームからお申し込みください。



* 登壇者情報は裏面をご参照ください。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_BqbFe_HrQxKffIFzZkN1jg

登壇者プロフィール



上田 勝彦

株式会社ウエカツ水産代表／東京海洋大学客員教授

1964年島根県出雲市生まれ。長崎大学水産学部卒業。在学中より、長崎県野母崎にて漁業に従事しつつ日本の漁村を行脚。1991年水産庁入庁、漁業取締、漁業調整、食品加工流通、漁村振興、調査捕鯨、マグロ漁場の開拓、日本海資源回復計画等に従事。2015年水産庁を退職。水産庁在職時より、魚の鮮度保持技術、地域加工品開発、食育関連の依頼等を受け始め今日に至る。「食は国なり」と位置づけ、島国である日本にとって不可欠である、魚食の復興を推進。トークと料理、その他あらゆる手段で魚の真実と魅力を伝える魚の伝道士。



高田 あかね

株式会社アレフ（ハンバーグレストランびっくりドンキー運営企業）SDGs推進委員会委員長／エコチムリーダー

札幌市立高等専門学校専攻科修了。まちづくりや都市計画等を学ぶ。札幌市海外派遣特別研究員として「英国などの持続可能なエコビレッジの北海道への適用と推進」を研究。2003年入社。「北海道・NZ生物多様性シンポジウム」実行委員を務め、同社の廃油回収と結びつけた「なたね総合学習」の経験を「環境省ESD環境教育モデルプログラム」に提供。食材の環境負荷算出と把握について社内協議会を運営。自然資本評価や発信ツールの制作なども担当。北海道セイウオオオマルハナバチ対策推進協議会所属。北海道SDGs推進プラットフォーム委員。3回の産休・育休経験者としても会社のSDGsを牽引中。



綿田 圭一

カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ 専任課長

神戸大学農学部園芸農学科果樹園芸学専攻修士課程卒。1988年カゴメ株式会社入社。研究所、工場、原料調達、CSR部門等を経て2017年より現職。気候変動対応、水・生物多様性保全等に関連する業務に携わり、環境教育にも力を入れている。また、京都産業大学での生物多様性の講演（19～21年）や、TCFD提言への取組みに関する講演活動を行うほか、農林水産省フードサプライチェーンにおける脱炭素化の実践とその可視化のあり方検討会委員（20、21年）を務める。



奥田 直久

環境省 自然環境局長

国内外の生物多様性目標の達成に向けた施策推進を含む、自然環境政策の全体的な計画策定と履行に責任を持つ環境省自然環境局長。1986年に大学を卒業し環境庁に入庁、以来35年間、自然保護の専門技官として国立公園や世界自然遺産の計画・管理、野生生物保護の国際協力、自然再生事業、自然環境教育等を担当。2021年7月の現職就任前の3年間は、環境省及び財務省の幹部として、自然環境保全以外の行政分野で勤務。



武内 和彦

公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）理事長

東京大学理学部卒業。同大農学系研究科修士課程修了。農学博士。専門は、地域生態学、サステナビリティ学。同大農学生命科学研究科教授、サステナビリティ学連携研究機構長・教授／特任教授、国際連合大学上級副学長などを経て、2017年より現職。2019年より東京大学未来ビジョン研究センター特任教授。中央環境審議会自然環境部会長、国際学術誌Sustainability Science編集長などを兼務。



橋本 禪

東京大学大学院農学生命科学研究科准教授

専門はランドスケープ・プランニング、生態系サービス評価とシナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学堂（講師、准教授）を経て2015年より現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの代表執筆者を務めたほか、2018年の同組織の学際的専門家パネルに従事。



渡邊 格

タルマーリーオーナーシェフ（野生の菌で醸すパン、地ビール&カフェ）

1971年東京都生まれ。2008年、妻の麻里子と夫婦共同経営で、千葉県いすみ市にタルマーリーを開業。自家製酵母と国産小麦だけで発酵させるパン作りを始める。2011年の東日本大震災の後、より良い水を求め岡山県に移転し、天然麹菌の自家採取に成功。さらに、パンで積み上げた発酵技術を活かし、野生の菌だけで発酵させるクラフトビール製造を実現するため、2015年鳥取県智頭町へ移転。元保育園を改装し、パン、ビール、カフェの3本柱で事業を展開している。

（五十音順）

（参考）

愛知目標とポスト2020年生物多様性枠組

(The Aichi Biodiversity Targets and the Post-2020 Global Biodiversity Framework)

愛知目標は、2050年までに「自然と共生する世界」を実現することをめざし、2020年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するという20の個別目標で、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)で採択されました。後継のポスト2020年生物多様性枠組は、2020年に中国の昆明で開催予定だったCBD/COP15で採択予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で延期され、2022年4月～5月に予定されているCOP15第2部での採択に向けて議論が継続されています。

IPBES: 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム

(Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)

IPBESは、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2021年11月現在、IPBESには137カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進めるIPCCの例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。



環境省webサイト

<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/ipbes/index.html>

連絡先

環境省自然環境局
自然環境計画課生物多様性戦略推進室

代表 03-3581-3351

直通 03-5521-8273

室長 中澤 圭一

室長補佐 大澤 隆文

専門官 竹原 真理